

中 心 市 街 地 等 再 編 調 査 特 別 委 員 会

1 日 時 令和7年6月25日(水曜日)

午後3時50分～午後4時42分

2 場 所 委員会室

3 出席委員	村 田 弘 司 委 員 長	竹 下 駿 副委員長
	竹 岡 昌 治 委 員	山 中 佳 子 委 員
	三 好 睦 子 委 員	岡 山 隆 委 員
	秋 枝 秀 稔 委 員	杉 山 武 志 委 員
	戎 屋 昭 彦 委 員	藤 井 敏 通 委 員
	末 永 義 美 委 員	山 下 安 憲 委 員
	石 井 和 幸 委 員	井 上 敬 委 員
	三 善 庸 平 委 員	

4 欠席委員 な し

5 委員外出席議員

荒 山 光 広 議 長

6 出席した事務局職員

岡 崎 基 代 議会事務局長 寺 埜 真 輔 議会事務局議事調査班長

中 島 高 輝 議会事務局庶務班長

7 説明のため出席した者の職氏名

な し

8 会議の次第は次のとおりである。

午後 3 時50分開会

○臨時委員長（竹岡昌治君） 皆さん、大変お疲れでございました。ただいまから、中心市街地等再編調査特別委員会を開きたいと思うんですが、その前にですね、私が臨時の委員長ということで、年を取っておりますので、年長議員がやることになっております。お許しをいただきたいと思います。

それでは、ただいまより、中心市街地等再編調査特別委員会を開会いたします。

この特別委員会は、本日の本会議で——は先日じゃけど、本会議で設置されましたが——次第が違う。3月の定例議会で多分決めたと思いますが、現在、委員長及び副委員長が決まっておりません。

ついては、美祢市議会委員会条例の第9条の規定に基づいて、本日出席委員の中で年長であります竹岡が委員長の互選までを進めていきたいと思います。よろしく願いいたします。

早速ですが、委員長の選出はいかがいたしましょうか。立候補でも推薦でもよろしいと思いますが、自薦他薦ございませんか。藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 私は、村田弘司委員を委員長に推薦したいと思います。

といいますのが、この中心市街地等再編調査特別委員会ですか——は経緯からすると、元ありましたJR美祢線の災害復旧対策調査委員会を一旦閉めた——改めて関連するということで、この委員会を立ち上げたと理解しております。

そういう意味で、前のJR美祢線復旧対策特別委員会の委員長である村田委員はですね、それまでの経緯等もよく御存じですし、今後とも美祢線の関連もございますので、委員長にふさわしいんじゃないかということで推薦をいたします。

○臨時委員長（竹岡昌治君） ありがとうございます。藤井委員のほうからそういうお話がありました。

私も今日一般質問を聞いておりまして、新しいこの委員会もJRけして、あれがありません、深い関わりがありますので。したがって、私もそう思っておりますが、皆さん方におかれましてはいかがでございましょうか。もし、よろしければ拍手をお願いします。

〔賛成者拍手〕

○臨時委員長（竹岡昌治君） それでは、村田委員に委員長に就任いただくことで議決いただきました。ありがとうございます。全員が異議なしと認めます。よって、

村田委員におかれましては、委員長に互選されましたので、私はこれにて役割を終わりたいと思います。よろしくあとお願いいたします。

○委員長（村田弘司君） ただいま、皆様方に委員長を仰せつかりました村田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。竹岡臨時委員長、ありがとうございました。

それでは、早速ですが、まだこの副委員長席が空席になっておりますので、副委員長を決めたいと思います。いかがでしょうか。立候補でも推薦でもどちらでもよろしいですが。石井委員。

○委員（石井和幸君） 私は、竹下駿委員を副委員長に推薦いたします。

竹下委員は、今現在、地域活性化等対策調査特別委員会のまちづくり対策分科会の会長として、責任感と協調性を持って、メンバーの皆様と一緒にまちづくり対策について一生懸命前向きに取り組まれております。

この中心市街地等再編調査特別委員会におかれましても、委員長に適任だと考えますので、竹下委員を推薦いたします。

○委員長（村田弘司君） いかがでしょうか。今、石井委員のほうから、竹下委員を副委員長として推薦するという御発言がありましたが、どういたしましょうか。

〔賛成者拍手〕

○委員長（村田弘司君） 全員アクションをちょうだいしたというふうに理解いたしました。

それでは、竹下委員、こちらのほうへどうぞ。ようやく今委員長と副委員長決まりましたんで。正式には2人がここに座らせていただきました。

それで今、副委員長に互選になりました竹下副委員長、御挨拶をよろしくお願いします

○副委員長（竹下 駿君） このたび、副委員長を務めさせていただくことになりました竹下です。委員長をしっかりサポートできるよう頑張ってまいります。よろしくお願いいたします。

○委員長（村田弘司君） ありがとうございます。ただいま正・副委員長が互選されたということで、これから特別委員会の設置目的であります持続可能で強靱な都市構造の再編に向けて、調査・研究を行ってまいりたいというふうに思います。

それでは、早速でございますけれども、本市では、人口減少の進行により中心市

街地の低密度化が進むとともに、将来的には、医療、福祉、子育て支援、それから商業など、生活に必要なサービスの提供が非常に困難になる懸念が大きくなっております。

つきましては、安心をして暮らせるまちづくりに向けて、より詳細に調査・研究を進めるため、本委員会の中に、分科会を設けてはどうかというふうに考えます。

委員の皆さんの御意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今、私のほうから御提案申し上げたいと思うんですが、その前にですね、ちょっと歴史を振り返っていただきたいと思うんですが、実は令和2年5月にこの庁舎を建て替えの特別委員会をつくりました。そのときに、名称は新庁舎等建設特別委員会ということで、等という字が使っております。

その中で、調査事項として「新庁舎等の改築もしくは改修に伴う市街地の再編について」というのを掲げておったんですが、結局、議論する場がなくてそのままになっております。

その後ですね、令和6年7月、去年の7月ですが、地域活性化対策特別委員会ができて、先ほど委員会も開かれました。その中にも「まちづくり対策」という言葉が入っております。

それから今回、また7年3月に中心市街地等再編調査特別委員会ということで、この中心市街地については、もう3度目の取組になるわけですが、ようやく本調子に議論ができるんじゃないだろうかとは思っております。

その背景といたしまして、御存じのように、急激な人口減少が現在美祢市に起きておりますし、経済環境も決して楽観できません。厳しい状態でございます。

中でも、財政状況は来年度予算も大幅に削減しなくちゃならないといういわゆる平成——いや令和12年に財政硬直化がくるんじゃないだろうかという予測で、私も一般質問させていただきましたが、もうきてると、既にというような状態になっております。

そのような状況の中で中心市街地の低密度といいますか、空き家がたくさんもう住宅地の中にもあります。そうした居住者がですね、生活を支える医療、福祉、子育て支援、商業等含めて、中心市街地の機能が随分と不足をしてるんじゃないだろうかというふうに思っております。

そうした状況下で、今委員長が申されたように安心して暮らせるまちづくり、極

めて喫緊な課題であろうと私は思っております。

せんだって、藤山浩先生の話にもありましたように、定住条件っていうのは、働く場所があること、それから住む場所がある、コミュニティの場所があることという3つを説明なさったと思います。

つまり、中心市街地の機能をどのように整えていくか、コンパクトで住みよいまちづくりをつくるためには、私は大変申し上げにくいけど、地域エゴはこの際外していただいてですね、本当に美祢市の中心市街地を整えていかなくちや、もう村になってくるというふうに私は危惧しております。

昭和29年の6ヶ町村が合併したとき、古い話なんですが、私伊佐地区です、岡山委員と一緒にですが、伊佐地区には、かつて国の施設まであったんです。裁判所もあったし、それから県の出先機関、警察もありました。それを、全部当時吉則っていうものをここに集める。伊佐の者は、本当は寂しい気持ちはあったんですが、地域エゴを出しとったんじゃあ新しい美祢市はできんなということで、実は半分悔しい思いもしながら、悲しい感じでは、我々は協力してきたつもりなんです。

それと同じようにですね、やはり秋芳・美東の皆さん方には大変申し訳ないんですが、中心市街地形成は、私は緊急の課題だろうというふうに思っております。そうした中で、今年、総合計画の後期をつくられたと思います。

総合計画の下にですね、都市計画マスタープランというのがあるのを皆さん御存じだろうと思うんですが、その都市計画マスタープランの下に、また立地適正化計画っていうのがあるんですね。そして、その下に、Mineのデザインノートというのがあるんですね、ようやく複合施設だとか、この中心をどうするんかっていうこともあります。

今日も一般質問にありましたように、美祢線がどういうふうになるか分かりませんが、万が一、BRTですか——っていう方式になった場合、軌道敷が要らなくなるということになると、大幅にまちづくりも見直していかなくちやいけないだろうなというふうに思っております。

そこで、先ほどの活性化委員会でもありましたように、それぞれの部会が発表しましても、御意見ありませんかと言われてもなかなか言いにくかったのは事実だと思います。で、私はここで部会を2つつくって少人数で議論していく、それを今度全体でどう取り上げていくかというのをやっていったらいいかなものかなと。

そうしますと、1つは、美祢市中心市街地整備についてということで、極端に言うとならMineデザインノートを中心にですね、中心市街地機能について、どういう機能を充足されたいのか、いわゆる誘致事業所等、どういうふうなものがあるのかとか、いわゆる厚狭川より東の分を地域を分けた意見ですが、やるべきだと。で、今のところ、西は手付かずなんです。

そうしますとね、私、フィリピンに行ったことがあるんですが、道路隔ててこっち側は開発してるから立派な、こっちはスラム街なんです。そんなまちをつくったらまずいと思いますんで、川から西、いわゆるそこは定住促進。

だから、この部会を2つに分けて、川の東と西とに分けてですね、片方は中心市街地のいわゆる立地計画に基づいたMineデザインノートを中心に議論を交わして、今日も藤井委員が一般質問されたように、どうするんか。それから、駅前も含めて、今度は歩いて暮らせる住環境をつくるためにはどうするのか。

今日、どなたの委員さんやったかな、6丁目、来福台の6丁目の話も出たと思います。これらを、私は土地そのものをリニューアルしていく必要があるということで、買戻制度とか突飛なことを考えてるんですが。そうした、ある一定の年になったらこの中心地に来てください、歩いて暮らせるまちをつくっておきましょう、これが大事だろうというふうに思います。

そうした形で、ぜひですね、委員長にお願いなんですが、お取り計らいは、2つの部会をつくって取り組んでいったらいいかなものかなというふうに思っておりますので、大変長く時間取りましたけど、その考え方を披露してお願いを申し上げます。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 今、竹岡委員から非常に丁寧な、さすがの長い議員生活を送っておられるベテラン議員としての御意見から踏み込んでもらいました。

旧美祢地域の昭和29年からの来歴、それから過去の令和2年6月、それから今回の3回の特別委員会の経緯まで踏まえて、その上で、我々の今回の本来の目的である都市機能をどうするかということ、それがやっぱり定住促進にもつながるということで、地域を2つに分けられましたけども、これも決して地域エゴじゃなしに、全体の意思を統合するために2つをつくろうと——つくったらどうかという御意見だったというふうに思います。

皆様方、どうですか、今の御意見を聞かれて。あれば、また出していただきたい。
いいですか。藤井委員。

○委員（藤井敏通君） 2つに分けるっていうか、ちょっと私自身がこの辺の地理が頭に入っていないので、どういうふうに分けて、何を検討するかっていうのがちょっと先ほどの竹岡委員のお話だけではイメージができなかったんで、もう少し詳しく分かるように、よそ者でも分かるようにちょっと話してください。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 今日藤井委員も一般質問の中でおっしゃったと思うんですが、1つは定住促進についてということになりますと、どういう住環境にしていくか、それから美祢駅をどうするのか、今までの計画とはもう根底から違ってくるだろうと思うんですね。

そうしますと、今、この全体図を見られたら分かるんですが、鉄道敷が通ってるんで、鉄道の後ろいわゆる西側、駅裏っていう場所なんですけど、水路を1個つくろうと思っても、JRが7年かかりました。で、道路は造れません。そうしたまちづくりに非常に分断をされてた駅裏も含めて、いわゆる住環境の整備というものが必要じゃなかろうかなというふうに思ってます。また、部会ができたなら地図で明示をしたいと思うんですが。

それから、JRがですね、ちょっと先の踏切から向こうへ行きますと、小学校、大嶺小学校がある手前なんかは駐車場造って、広い土地がそのままになっております。そうしたのも、JRそのものもまちづくりについて協力願いたいということで、村田委員長にぜひ委員長になってくださいというお願いを私も思っていましたんで、今までの経緯も含めて、そうした1つの定住環境をどのようにしていくのかと、いわゆる上から見たまちづくりをどうするのか。

一方では、今日もありましたように、いわゆるMineデザインノートの考え方、あるいは進め方、これらについても若干JRとの関係もありますので、これは地理が分からなくてもできると思うんで、言い方悪いけど、藤井委員、そっちかなあという私自身の思いだったんですが、私はぜひ住環境のほうにいきたいなと思ってます。

そうした形で、ぜひ、地理感のある人となない人がいらっしゃるかもしれませんが、また、地図ではっきり分かるように明示をしたいと。実は手元には持っておるんですが、まだちっちゃな資料しか持っておりません。

○委員長（村田弘司君）　ちょっと竹岡委員、いいですか。今、事務局のほうから御手元に地図が配信されたと思います。これを見られたほうがはっきり分かると思います。

○委員（藤井敏通君）　川っておっしゃったのは、この厚狭川。

○委員（竹岡昌治君）　はい、厚狭川です。

○委員（藤井敏通君）　私はてっきり伊佐川のことかと思ってたんで、こっちかなっていうか。

要はこの地図で、ある意味、美祢駅側とこっち側の新しい新図書館とかいうこの2つに分けてと、そういう意味ですね。はい、分かりました、

○委員（竹岡昌治君）　申し訳ないです。我々通常川西、川東っていう言い方をしますんで、うっかりしました。伊佐川じゃありません、厚狭川です。

で、Mineデザインノートはほとんど川西になってるんですよ。だから、恐らくJRのことがあるんでよけたんかもしれないんですけど、私は、JR、この際協力を求めたいと。

○委員長（村田弘司君）　川西じゃないでしょう。

○委員（竹岡昌治君）　川西。

○委員長（村田弘司君）　川東。駅のほうは。今、デザインノートの。図書館のほうは川東。

○委員（竹岡昌治君）　川東。まあ、そういう分け方をしたんですけど、別に委員長がおっしゃったように地域エゴを出すわけじゃないんですが、それを今度ぶつけ合ってやっていったらなと。申し訳ありません。

○委員長（村田弘司君）　地理的なものは、藤井委員、分かりました。

このデザインノートですね、空間デザインコンセプトの図面なんですけど、これ、昨年の2月に市がつくったもんですね。その図面、これ見られたらはっきり分かると思います。

ですから、今、竹岡委員の説明もありましたけれども、駅舎、それから駅前広場等を含めて、これが川西、そして、その駅の裏のほうが全部住宅地域になってますけれども川西ということで、厚狭川の東側に、今行政ゾーンとか子育てゾーンとか公園ゾーンとかありますけれども、にぎわいゾーンが駅西になりますけれども、その他については東側という形だろうというふうに思います。

それで、基本的に、今の2つの委員会に分科会を設置するというのはよろしいですか。

○委員長（村田弘司君） 三好睦子委員。

○委員（三好睦子君） 分科会をつくることは、別にあればいいんですけど、それまでに、まだちょっと乗り越えられないところがあるんですけども、先ほどいろいろお話がありました。地域エゴをなくせと言われました。

その例として、フィリピンのことを出されました。フィリピンを例に出しちゃって、伊佐もですけど、伊佐かもしれませんけど、フィリピンで見たと。片方はよくて、片方は整備されてなかったということを言われました。で、それを踏まえながら、厚狭川東側はできてるけど、西側は手付かずだと言われましたけれども。

これは、全く何か地域エゴが乗り越えられないところがあるんですけど、私は美東から出て、あんた、何買うたんかねとか、何か苦しいところがあるんですけど。西側が手が付かず、その西側が美東・秋芳じゃないのかなというような気がしてきたんですけど。地域エゴは——昭和生まれですからね。

○委員長（村田弘司君） 三好委員、ちょっといいですか。さっきの竹岡委員の話は、結局これからこういう大きなことをしようとするときに、今やろうとしてるのは、中心市街地ですよ。Mineのデザインノートそのものが今こういう図面があるように、ここです。この図書館を含めて、美祢駅を含めてやろうとしてるのが、市がしようとしてるのはここです。

それは、美東地域・秋芳地域の人からすればちょっと遠く感じるかもしれんけども、そういうふうな思いを外してもらって、みんなで一緒に振興するための策を練りましょうと。

それは、結果としてですね、これは今中心市街地という言葉を使ってますけど、今度は地域の中心市街地ということで、美東なり秋芳のやつをこれからまた市が考えていきますから、それ、また我々議会も関わっていくようになると思いますので、決して美東を置いてくとか、秋芳を置いていくとかいうふうな差別的な思いはないということです。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 実はですね、私は秋芳のワークショップも全部出ました。で、美東は、言い方悪いけど出てませんが、ワークショップそのものは、実は美祢は令

和3年にやったんですよ、始めた。で、美東・秋芳は4年から始めた。で、後から美東・秋芳やったけど、実はできるだけ合併して地域エゴがあっちゃあいけんから、美祢の者は我慢してほしいということで、美東・秋芳の拠点施設を先につくってくれとお願いをして、同時にかかったんです。

で、図書館もあの中入ってるのは、ここの図書館はもう本が増やされない、重量がもたないんです。で、監査のほうでも指摘してるんです。もうこれは駄目だと、蔵書はできませんと。だから、全部秋芳・美東に振り分けていこうという形を今とってですね。で、あちらのほうを先にやろうということでやったんです。

だから今度は、本当に美祢の中心市街地形成をしようとするときに、また美東がどうのって、恐らく三好委員が言うじゃろうと思ったから、あえて僕は言うたんですが、それは外してもらわないと、議論が進んでこんと思います。

○委員長（村田弘司君） 三好委員も、先ほど竹岡委員のことはね、長いベテラン議員というふうに申し上げたけど、三好委員もそういうベテラン議員やから、それを十分に御承知だろうと思いますんで。どうですか、何かあります。

○委員（三好睦子君） あります。議員は長くしてますけど、美東出身で地域がエゴだったらいけないっていうのは分かってますけど、やはりその出身は美東ですから、その美東の方達の願いを届けないといけない、届けるっていうのが私たちの役目だと思うので、置いてけぼりになるようなことがあってはいけないと思ったので、そのところ、ちょっと乗り越えられないなと思ってるし、気持ちの整理が――。

○委員長（村田弘司君） 言われた意味分かりますけどね、どこを考えてもらっても分かると思います。市であれ、町であれ、村ではですね、中心が廃れたところは、その周りも全部駄目になるんですよ。間違いありません。

ですから、今回やろうとしてるのは、美祢市の中心ですよ、中心ですよ、市の庁舎がありますから、本庁舎がありますから。ですから、ここを決して美祢市がこのまま崩落、崩壊しないように、ここの市街地をつくるということは、ちゃんとつくるということは、美東も秋芳も同じようになっていくということです。

ここを崩してしまったら、美東・秋芳も駄目になります。これはね、間違いありません。その辺は理解してもらいたいと思います。そのために、中心市街地の整備というのがあるんです。

○委員長（村田弘司君） 三好委員。

○委員（三好睦子君）　ここで、気持ちの整理がついても、住民の地域の方たちは、私はどのように選択するっていうか、ちょっと気持ちを伝えるっていうか、ちょっとそこが乗り越えられるかなと思いましたけど。

でも、何かワンチーム、1つになってとかありますけど、今でも何かちょっと、言い方悪いけど、いやいや口に出すべきことではないけど、やっぱり格差っていうか、何かあるのをそれを1つにまとめなければいけないと思うんですけど、それが乗り越えられるかなと思って。

○委員長（村田弘司君）　すみません、乗り越えてください。それをね、どんな地域でも家族の中でもね、親戚関係でもいろいろあります。どこでもあるんです。でも、それはね、みんなが理解し合って乗り越えないと大きなことは生まれませんし、ちゃんとしたことできないですよ。

ですから三好委員、よろしくお願いします。いろんなことお腹の中にはあるでしょうけども、それを抱えながら一生懸命やりましょう、一緒に。お願いします。

○委員長（村田弘司君）　三善委員。

○委員（三善庸平君）　私のほうからも意見をお伝えしたいと思います。

三好委員が言われることは何か分かるなっていう、気持ちは分かりますし、実際、美東の人が例えばどういうことだって言ってくる光景も正直浮かぶ部分はあるんですけど。

ただ、今回のケースにおいていうと、今回の一般質問で藤井委員が言われたように、複合化施設ができて、これからまた市街地をてこ入れしていくとかそういう流れの中で、我々委員として、その市街地に対していろいろ意見を言ったりだとか、もっとこうしたほうがいいよねっていう場を述べなければいけないっていう使命というか役割があると思います。

今回のケースは、それに伴ってのこの委員会っていう面も大きいのかなというふうに思うので、三好委員が言うように、美東・秋芳っていう問題よりも、市がこのデザインノートを使ってやっていくっていうところに対して、我々議会として、どういうふうに市が進めていく方向に対して、我々調査したらこうじゃないのかっていう場をここでつくっていくっていうことだと思うので、そういうことなんじゃないかなというふうに思います。

以上です。

○委員長（村田弘司君） 三好睦子委員。

○委員（三好睦子君） 地域エゴにならないように、しっかりと発言して頑張っています。

○委員長（村田弘司君） 固い決意を聞きました。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） 私もですね、三好さんの言うこと、よう分かるんですよ。やっぱり美東というのは遠いんですよ。美祢へなかなか人が来ないんです、美東からですね。それをですね——だから、やっぱり地域っていうのが出るんですよ。で、乗り越えられんかなあと思うんですけどですね。

今、委員長が言っちゃった美東忘れてないよと。そしたら、いつから美東忘れんとやってもらえるんですかね。

○委員長（村田弘司君） これはね、先ほど三善委員も言われたけどね、市が行政体として市街地をやろうとしたんですよ。それを、我々議員が知らん顔して、我々は、美東やから秋芳やから、美祢地域のことは知らんということで通してしまったら、議会は何のために存在するんですか。私は本当にそう思います。

我々が、やから議会としていろんな意見がありますからですね、それを出してもらって、それを調整をして、市がしようとしていることに、我々は市民の代表です。美東から出られたら美東の言葉でもいい、秋芳の言葉でもいい、美祢地域の言葉でもいい、私は於福の言葉でもいい。それは皆が合わせていって、美祢市のために、我々は議員として意見を出しおうてやろうと、一緒に仕事を。秋枝委員。

○委員（秋枝秀稔君） そうなんですよ。だから、意見出さんにやいけん。

○委員長（村田弘司君） そうですね。

○委員（秋枝秀稔君） 三好さんが言ってること、よう分かるんですよ。地域が美東遠いんですよ。

で、もう1つはですね、それはそれとして、竹岡委員が言われたように、分科会、賛成です。議論を例えばですね、こういうふうに絞り込むっちゃうのもですね、やはりこれを中心にして、同じように検討するというこういう仕組みでないと、やはり我々はよう分からんところありますから、美祢に関してはですね。だからその辺は了解いただきたいなというふうに思います。

○委員長（村田弘司君） 今、秋枝委員が言われたことはよく分かります。

それで、例えばですよ、まだ皆さんから書類でいただいたわけじゃないから、

2つの分科会にするわけではないんだけど、幾つの分科会になるか分かりません。それから中身について。

結局、最終的には、これ全員で一緒になって1つのことにまとめていくわけですから、中身が大きいから、分科会でそれぞれがやらせてもらって、最後にぶつけ合って、1つのものをつくり上げていくという考え方でいこうと思っています。

○委員（秋枝秀稔君） だからですね、議論をこれだけに絞るっっちゃうことだけはやめてほしいということなんです

○委員長（村田弘司君） 中心市街地を形成するための調査・検討するための委員会としての機能は、私は委員長として、責任を持ってやらせてもらいたいというふうに思いますので。井上委員。

○委員（井上 敬君） 私はですね、はっきり言って、すごく西の地域といっても分かりませんが、全てに対して、意見も当然言いたいし、2つに分けなきゃいけない、2つというか部会を分けなきゃいけないっていうのが、大きい問題だから分けてっていうこともあるかもしれませんが、むしろ、しっかり関わりたいと思うんで、全てに入り込んでいきたいと思うんで、1つでもいいんじゃないかなと思うんですけど。分けなきゃいけないっていうのはどうなのかなっていうのもちょっと感じます。

○委員長（村田弘司君） 恐らく竹岡委員が言われたのは、現在の状況が住宅地域とそれからこちら今文教地域、それから商店であるとかというふうに大きく分かれてるんですね。川を西と東に分かれてね。

ですから、それぞれ機能を持ってきた歴史を尊重しつつ、そして、この中心市街地を活性化しようというお考えだろうというふうに思うんですが、竹岡委員、どうですか。

○委員（竹岡昌治君） もともと都市計画マスタープランでゾーニングしてるんですよ。それは、美東も秋芳も同じなんです。むしろ、美祢が先にやりよったんじゃないけど、言い方悪いけど、今荒山議員と私と何人おってかなあ。戎屋議員ね。

ですから、美祢は100歩譲ろうと、で、美東・秋芳先やってくださいと、やったのが失敗だったとは僕は今思ってるんですよ。いや、そうですよ。それはね、これ地域エゴ出したらできないんですよ。だから、私はどうぞ先にやってくださいと。

それで、ワークショップに行ってみたんですよ。で、やはり、これは秋芳は3月

24日にやっております。それから、また5月の20日も2回やってですね、ゾーニングしたりいろんなことをやりました。これは美東も同じ、秋芳もやってます。その集約したものが今の——だから総合支所って言ってないんですよね、あれは。

だから、それをまず先つくりましょうやって言ってつくってもらったんですよ。で、後からこっち側やりましょうと。だから、ちょっと控えてねっていうお願いをしたつもりなんじゃけど。

○委員長（村田弘司君） いや、私はね、私言わせてください。私自身もこの旧美祢・美東・秋芳が大合併しましたよね、今の美祢市、新美祢市つくったときに。私、合併協議会事務局長をしてました。大変だったです、そりゃあ。それぞれがね、どこもエゴの塊でした。エゴの塊がぶつかり合って、そして、それをこの1つのものにつくり上げるというのは、本当に地獄の中からものをつくり上げるような感じやったです。それが大変やったです。だから、今、三好委員が言われることは分かるんですよ。竹岡委員が言われることも分かる。

だからね、それぞれの思いはあるけれども、それを全部出してしまってもぶつけると、これ意見と違うんですね。ぶつけ合って憎しみの中に落ち込んでしもうたら前に向いてものがないので、それだけはやめてほしいなということで、私はさっきから申し上げてる。三善委員。

○委員（三善庸平君） ちなみに分科会2つ分けたときに、地域活性化等特別委員会のほうは、複数入ってよかったじゃないですか。今回も2つ、別に入ろうと思えば入っていいっていう形ですよ。

○委員長（村田弘司君） 三善委員、今からちょっとどねえするか決めます。そして、その後でそれはちょっと決めます。

いろいろな御意見が出ました。熱い思いを語っていただいて、委員長としても実はうれしいんですよ。うれしいです。そういうのがないとこういうのはうまくいきません。初めに声を出してもらおうとありがたいですね。

それで、どうしましょうかね。今、竹岡委員のほうから2つに分けるという意見が出ました。

基本的に、私は全体のゾーニング部分、昔からあったのがそのまま活かした形で話ですんでいいかなというふうな思いがあります。厚狭川のより東ですね、これは中心市街地機能整備検討分科会っていう方がアドバイザーかなというふうに思っ

てるんですが、それから厚狭川より西、これらの定住促進環境整備検討分科会、そういう形で、2つに分けてよろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君）　ありがとうございます。じゃあそのように取り計らいたいというふうに思います。

それでは、今三善庸平委員のほうからお話があったように、2つの分科会に分けて、それぞれが重複して入るということも可能にしていいたいですか、皆さん。いいですか。どうですか。そうすると全部がね、こっちでないが、こっちでないかということになるんで。

○委員（三善庸平君）　選ぶ基準が分からないですね。

○委員長（村田弘司君）　三善委員、気持ちはよく分かる。私が今委員長の立場でもどっちも入ってみたいんだけど。頻繁に分科会それぞれやってもらって、それをぶつけ合うことを繰り返したほうがいいと思う。

それと、駅がありますよね、駅は基本的に、ゾーニング的に言えば西側なんですよ。定住促進環境整備のサイドにもなるんじゃないけども、この駅、JR美祢線がどうなるか分かりませんが、今日、藤井委員が議員として一般質問でいいこと言ったと思って。

市長から計画が変えられないというのを前から聞いてったのが、今から変えられると、変えることで努力するという話は引き出したと、それはもう市長の口から出たんで。美祢線、美祢駅周辺は変えることにも関係してくるから、この分科会——この特別委員会、大変大きな意味があると思ってますんで。

どうしましょかね、2つの分科会それぞれ分かれて入ってもらって、そして、頻繁にそれをぶつけ合うというのはどうですか。

○委員長（村田弘司君）　山下委員。

○委員（山下安憲君）　分科会をですね、例えば時間帯を分けて、どっちも例えば一緒にやりながら、だんだんだんだん自分こっちあってるかもとか、それとかこっちにいかうとかですね、もう少しちょっと回数を重ねて、お互いが何をするのとか全体を見ながら、竹岡委員が言われてる意味が恐らく皆さんにも分かってくると思うので。

なので、何回か、何か今回ちょっとこっちからの視点でやりましょう。で、その

次の時間帯はこっちの視点でやりましょうというふうに両方をちょっと経験させていただいて、それから、何かだんだんちよっとう皆さんに知見ができたときにですね、そろそろじゃあ分かれていこうかみたいな、そういった何かちよっと徐々に加速するような感じはいかがでしょうか、

○委員長（村田弘司君） いい意見ですね。訳の分からんづくに大根の真ん中から切られて、あっちのほうがよかったっちゅうよりも、全体の大根の状態を見てから、そしてこっちのほうにいくか、あっちのほうにいくか動いていくのは、まあ。どうですか、そういう方向でいいですか。山中委員。

○委員（山中佳子君） もう、実施設計には入ってるわけですね。

○委員長（村田弘司君） 入ってますね。

○委員（山中佳子君） そしたらもう時間が、この会も早くしないと時間がないんじゃないですかね。

○委員長（村田弘司君） 私、もうね遅くても、1年以内にはまとめたいと思うんですよ。

○委員（山中佳子君） ですね。1年以内よりもっと早くしないと全然声は届かないと思います。

○委員長（村田弘司君） ということだから、その大根はどっちの大根がええかっちゅうのはちいと無理な話じゃないかという意見ですから。

ただね、1回は、もう1回私の考えでは、次のこの特別委員会をやるまでですね、それぞれの委員の方々に、2つに分けたいからどっちに入りたいかという意見を持って次集まってもらって、それで正式に分科会の構成を決めようと思ったんですよ。だけど、ちよっと短兵急過ぎるかなっていう感じもなきにしもあらずで、だから、もう1回だけ。竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） 総合計画は、皆さん、先日お手元に皆配っていただいたから見られたと思うんですね。

で、都市計画マスタープラン見られた方いらっしゃいますか。でしょう、これ基本になってるんですよ。だから、総合計画の下に都市計画マスタープランがあって、いろんなことが書かれています。で、その下にまた適正化計画に入っていく、その下にデザイン計画が入ってますからね、これ、全部皆見ていただかないとですね。

もし、あれだったら、今度委員会でちよっと見てみるか。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員、恐らくこの中で一番よう勉強しておられると思います。

それで、今日ちょっともう時間がないんで、次の特別委員会開催時にね、その内容について、四層——四重高層になっちよるんで、その整理、その中において、この2つのこの分科会の意味、位置づけ、それを理解してもらった上で分けましょう、ちゃんと。ということでもいいですか。

○委員（竹岡昌治君） はい。

○委員長（村田弘司君） じゃあ次回に中身についてちょっと勉強して、その上で2つの分科会をきっちり分けて、どちらかで決めていきましょう。

それでは、今日は閉めたいというふうに思います。で、次の特別委員会は日程調整がまだできませんので。ということで、今の件は終わりたいと思います。次の特別委員会でやりたい。

そして、次にですね、JR美祢線に関連して、荒山議長から発言があります。どうぞよろしくお願いします。

○議長（荒山光広君） 皆さん、お疲れさまです。何とか特別委員会もスタートを切れたようでございます。

先般の全協でもお話ししましたように、6月の何日でしたか、美祢線の利用者促進協議会の総会が開催をされました、5月でしたかね。そのときに、私のほうから美祢市議会の意見として、美祢市議会では、先般、JR美祢線復旧に関連する要望書をJR広岡支社長に提出させていただきました。

本議会としては、被災からはや2年が経過することを鑑み、復旧モードのいかんによらず、自治体の費用負担や市民の利便性を念頭に、今後、具体的な議論が加速することを望んでおりますというふうな意見を申しております。

で、今度7月の16日でしたかね、臨時総会があります。そのときに、またそれぞれの市の意見、それからそれぞれの議会の意見、またそれぞれの観光関係の団体の意見、商工関係の団体の意見というのを求められると思います。そのときに、美祢市議会として、先般の総会と同じような発言になろうかと思います。

付け加えて、今日、こういったまちづくりの中心市街地等再編調査特別委員会もできましたので、復旧のモードによって、美祢駅の扱いも変わってくると思いますので、そういった意味でも、早く次の段階にいて、早めにモードを決定していた

だきたいというふうな物の言い方になろうかと思いますけども、そういった形で、皆さん、御了承いただけますか。

○委員長（村田弘司君） 竹岡委員。

○委員（竹岡昌治君） その場合、決めるのは、法定協議会か何かじゃないんですよ。でしょう。総会で決めるんじゃないんです。

以上です。

○議長（荒山光広君） 利用促進協議会は、あくまでも利用促進のための協議会ですので、たまたま被災して、去年でしたか、復旧モードに関する調査の部会ができて、その部会の調査結果を先般総会で報告されました。それは、この前全協で説明したとおりです。

今度の臨時総会では、再度、皆さんの意見を持ち寄って、どういったことがいいのかという意見を聞いて、次の段階に入る。だから、あくまでも今の利用促進協議会の総会、あるいは臨時総会でモードを決めるということはできないので、次に、恐らく法定協を立ち上げるようになるんじゃないかと思いますが、その場で具体的なモードを決めていく。それが決まらなと、せつかくこうやって特別委員会で協議・審議してもですね、空論になります。

で、モードが決まって、それじゃあ駅の立場、立場ちゅうかポジションどうなるのとか、その辺の具体的な話はできると思うので、そのためにも早くモードを決める手続に入ってくれという意見を言おうと思ってます。いいですか。

○委員長（村田弘司君） 一応、そしたら今の美祢線利用促進協議会、それから法定協議会に移行して、モードどうなるかというのは、まだ先が分からんということでやってるからね。分からんちゅうことは、この特別委員会はというふうなものになるかによって変わってくるんで、今日も市長の話をされたから、それに合わせていく形になりますんで、その辺も委員の皆さん方に理解していただきたいというふうに思います。今の議長の発言、何かありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） いいですか。では、この件は以上で終わります。

その他、委員の皆様から何かありましたら御発言をお願いします。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（村田弘司君） いいですか。ないようでしたら、これにて本特別委員会を

閉会いたします。お疲れさまでした。

午後 4 時42分開会

上会議の顛末を記載し、相違ないことを証するためここに署名する。

令和7年6月25日

中心市街地等再編調査特別委員長